

東高

# 国際だより

平成29年5月10日  
京都府立東舞鶴高等学校  
国際教育部発行  
2017 vol.2

## 青年海外協力隊員として活躍中の吉積勇人先生が一時帰国！（4月7日）

青年海外協力隊員としてネパールで活動されている吉積先生（本校英語科教員）が、一時帰国中に来校されました。ネパールの小学校で英語の先生をされています。日本にはモノがあふれていますが、ネパールでは状況は全く異なるそうです。昨年度末に東高生や教職員から寄贈されたペンや消しゴム等の文房具品を吉積先生にお渡ししました。ネパールの教育活動に役立てていただきます。

たくさんの寄付をいただき、感動しました。ダンネバード（ありがとう）。



### 青年海外協力隊員とは？

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために生かしたい」という強い意欲を持つ20～39歳の方が応募できるJICAボランティアです。

### JICA（ジャイカ）とは？

日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、途上国の貧困、環境問題、感染症、紛争など開発における様々な問題解決に取り組んでいます。グローバル化が進み、相互依存関係が深まる世界において、ODAは平和と発展に貢献しています。

### 国際教育講演会

日時：6月9日（金）午後  
講師：根木 尚子 さん

講師の先生は、JICA 関西で国際協力推進員をされています。JICAとは？開発途上国とは？国際協力とは？青年海外協力隊とは？なぜ国際協力をする必要があるのか？などについてお話していただく予定です。吉積先生のネパールでの様子も紹介していただきます！

## 1年生 舞鶴引揚記念館 遠足（4月25日）

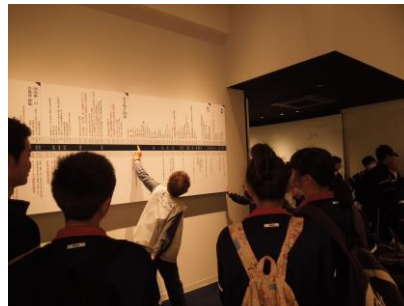
1年生の遠足で、地元舞鶴を知る上で重要な舞鶴引揚記念館へ行きました。前半・後半2班に分かれ、まず引揚記念館の学芸員の方による講義が行われ、引き揚げについての概要や、引揚者を舞鶴市民が温かく迎えた話などを聴きました。その後、小グループに分かれ、ボランティアガイドさんの説明を聞きながら、館内の展示物を30分程度かけて見学しました。1年生は地元舞鶴について勉強できる貴重な機会となりましたね。今度AETの先生に会ったときに、引揚記念館のことについて話してみてもはどうでしょうか。



↑学芸員の方による講義の様子



↑引揚者が立ち寄った航路を確認



↑ボランティアガイドさんの説明

### 案内

## 東高英語キャンプ

日時：6月17日（土）  
午前10時～午後4時（予定）  
場所：東高  
昼食代：有料（※昨年度 300円）  
定員：30名

東高や近隣高校のAETの先生たちが、ワークショップや料理教室を開いてくれる行事です。楽しい活動しながら自然に英語が学べるというお得なイベントです。毎年大人気なので、申し込みは早い目にね！申込受付等の詳細は後日連絡します。



（写真は昨年度の様子）

メキシコ料理のタキートとメキシカンライスを作っています！

## Namaste ～ネパールからの手紙～

昨年度から、青年海外協力隊員としてネパールでボランティア活動をされている英語科吉積勇人先生からのメッセージをお届けします。

今月は日本では報道されない、ネパールで今起こっているビッグイベントについて紹介します。現在ネパールでは19年ぶりの選挙が行われるべく様々な政治活動やイベントが行われています。地方選挙から始まり、徐々に国政選挙まで発展するとみられています。そもそも市長や村長が19年の空白の後やっと選挙されるということ自体が驚きですよね？これはネパールの政治的背景や他民族で構成されていることが大きく影響しています。ネパールは2001年まで王政でした。それまではラジャ（王様）が政治をコントロールしていたのですが、王家の中でのいざこざが原因で、晩餐会で親族が銃を乱射し、時の王様はいなくなってしまう。2006年まで王政はかろうじて維持されたのですが、民衆からの大反発の末、王家は滅びることになります。その後新憲法が制定され、民主主義国家としての一歩を歩み始めたのですが、その憲法の内容はインド系民族の人たちにとって都合が悪いものでした。勿論彼らは政府に対して抗議をするのですが、その内容も穏やかではありません。時に死者がでることもあります。インド系の人々だけでなく、マオイストと呼ばれる毛沢東主義思想を掲げた団体も政府に反発してきました（ちなみに今の首相はマオイスト）。それによって、19年間も地方選挙が延長され続け、来月やっと実現されることになっています。我々には関係ないと思いきや、バンダと呼ばれる抗議運動のために、交通機関がすべてストップしたり、お店が開かなくなったり、インドから物資が入ってこなくなったりと色々不便なことが起こっています。時には命の心配をしないといけない状況もあります。

これが、日本では報道されないネパールの今です。ネパールの人々は民主主義を実現しようと大きな一歩を踏み出そうとしています。グローバル化や民主主義化の大波の中で、マオイストのようなテロリストとも思える政党が台頭したり、抗議デモ中に死者が出たり、みんな関心があるのかと思いきや政治に諦めを感じている人がいたり本当に混沌としています。昔の日本も民主主義化に伴いこのような状況はあったのかなあ？と疑問に思ったりしています。

写真はバンダの様子と現在の首相プラチャンダです。ちなみにプラチャンダはあだ名で「危ない奴」という意味らしいです。



「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。

